

# Autodesk Cleaner™ 6.5.1

## はじめにお読み下さい

プロフェッショナル用ビデオエンコードのスタンダードソフトウェアである **Cleaner™ 6.5.1 Apple Macintosh**版をご購入頂きありがとうございます。Cleaner 6.5.1は本書に記載されている多くの修正項目を含んでいます。

この「はじめにお読み下さい」には稼動条件や修正された項目、確認されている不具合情報、ワークフロー情報、サポート情報など重要な情報が含まれています。Cleaner 6.5.1をご使用になる前に必ず本書を一度お読み下さい。同様に Autodesk Cleaner 6.5ユーザーズガイドもご一読下さい。

### 稼動条件

- ・ PowerPC® G4もしくはそれ以上のプロセッサを搭載したApple Macintoshコンピュータ (G5 プロセッサ推奨)。 Intelプロセッサ搭載 Mac コンピュータは保障・サポート対象外です。
- ・ Mac OS X 10.3.9 もしくは10.4.7
- ・ QuickTime 6.5.2 以上 7.1.3未満
- ・ 512 MB RAM (HDビデオでの作業には768 MB RAM 以上)
- ・ 解像度1024 x 768ピクセル、16bitカラー以上をサポートしたディスプレイ環境 (24-bit カラー推奨)
- ・ CD-ROM ドライブ
- ・ ソフトウェアインストール用に35MB以上のハードディスク空き容量

### アップグレードに際しての情報

Cleaner 6.5.1へアップグレードする前に、Cleaner 6.5がインストールされている必要があります。お手元の古いアクティベーションキー情報を保存するようにして下さい。Helpメニュー>Save System Configuration を選択すると configuration ファイルから以前使用したアクティベーションキーを確認することが出来ます。

### 修正された不具合

- ・ QuickTime 7.1.3での全般的な安定性と互換性が改善されました。
- ・ MPEG-4を用いたiPodビデオエンコードがサポートされました。

- ・ エラーを起こさずに長尺のAVI Apple Noneファイルをエンコードできます。
- ・ CleanerはWatch フォルダからのMPEG-2ソースクリップを正確にエンコードできるようになりました。
- ・ Kinoma PSPからのエンコード結果がPSPデバイスに準拠するようになりました。
- ・ MPEG-1,MPEG-2ファイルを除いた全てのビデオソースに対して、iPod-H264ビデオプロファイルを用いて、iPod用の互換性の取れたビデオファイルを作成することが出来るようになりました。
- ・ エンコード作業の終了時にトラブルがなくエンコードファイルを作成できるようになりました。最終的にクラッシュしてしまう問題を解決しています。
- ・ 適切な3GPストリーミングに必要なとされるヒントトラックを収めることができるようになりました。
- ・ 設定通りのインポイントを使い、MPEG-1 と MPEG-2ソースファイルをエンコードできるようになりました。
- ・ MP3オーディオを使ったH.264 QuickTimeエンコードがエラーなしで行えます。
- ・ 新規ユーザーは管理者権限なしで通常通りアプリケーションを起動できるようになりました。
- ・ Kinoma PSPコーデックを使用した際、PSPデバイス上で確認される出力ファイル名がソースファイルのコピーとして確認できます。
- ・ MPEG-1とMPEG-2プログラムストリームのエンコードオプションからMPEGレイヤ1へのオーディオコーデック設定が削除されました。
- ・ M2VとAIFFからMPEG-2へのエンコーディングが正確に動作するようになりました。
- ・ MPEG-1あるいはMPEG-2（乱れたプログラムファイル）が正しくレンダリングできるようになりました。
- ・ MPEG-2へのエンコード中に、テンポラリファイルが残ってしまう問題を解消しました。
- ・ Audio Volume Normalizeを使用した際に、設定通りにオーディオトラックを持ったクリップを作成します。
- ・ iPodへMPEG-1,MPEG-2ソースをエンコードするために、互換性をもつビデオエンコード用にiPod-MPEG4のビデオプロファイルを使用するように変更されました。
- ・ Cleaner は3GP設定フォルダを新しく搭載しました。
- ・ audio modifiersを使ってエンコードする時、MPEG2ソースクリップがCleanerをクラッシュさせる問題を解決しました。
- ・ Cleaner 6.5.1はQuickTimeのバージョン6.5.2 から 7.1.3.までをサポートするようにな

りました。

- ・基本的なファイルはiPod-MPEG4ビデオコーデックによってiPodエンコーディングと互換性をもちます。

### 確認されている問題点

- ・いくつかのソースメディアをRealメディアにエンコード終了後、Cleanerを終了した際に結果がクラッシュする場合があります。Real出力はTiger (10.4)に対応していません。  
<http://www.realnetworks.com/products/realexport/features.html>
- ・インポイント、アウトポイントを使用してAVIを3GPへエンコーディングする際に、Cleanerがエンコード作業を開始する前に長時間停止状態になります。
- ・CDからソースとしてイメージシークエンスを読み取ることは出来ません。
- ・インポイント、アウトポイントを使用してDIVxソースファイルをエンコードするとCleanerがクラッシュする場合があります。  
対策：DIVx以外のフォーマットに事前にエンコードしておくか、インポイントとアウトポイントの設定を行わないで下さい。
- ・Kinoma Sony PSPエンコードファイルをPSPに送信する時、出力ファイルは正しくネーミングされません。  
対策：それぞれにM4V0000Xとリネームし、そのXには最新のナンバーに1をプラスしておく必要があります。そうでなければ、PSPデバイスは転送されたファイルを認識することができないでしょう。プロキシーはPSPデバイスでは利用できません。出力ファイル名のファイル拡張子を有効にすることはできません。
- ・Kinoma Sony PSPにエンコードする際に、クリップはオーディオとビデオトラックを両方持っている必要があります。そうでなければ、Cleanerはクラッシュします。
- ・Real Player R10 NTSC LargeとMediumそして Small設定を使用してエンコードした際に、オーディオ情報が欠落した結果になる場合があります。  
対策：エンコードを再実行するか、インポイントアウトポイントを使用して再度エンコードします。
- ・iPodへエンコードする際に、Projectウインドウ上で設定されたインポイント、アウトポイントの情報が無視されます。  
対策：codecからインポイント、アウトポイントを設定します。
- ・サラウンド音声（5.1チャンネルオーディオ）を含んだソースクリップをエンコードするとオーディオなしのクリップ結果を生みます。
- ・iPodファイルにエンコードする際、処理時間表示は正確ではありません。
- ・Cleaner 6.5.1へアップデートする際に、アップデートは以前のリリースから古いiPodのビデオプロファイルを取り除きません。6.5.1が提供する新しいiPod-H264およびiPod-MPEG4プロファイルを使用するようにして下さい。

- ・Cleaner 6.5.1へアップデートする際に、古いDIVxデコーダがゴミ箱から削除されない場合があります。  
対策：ユーザーを切り替えるかマシンを再起動させ、その後ゴミ箱を空にします。
- ・バッチ処理の優先順位（Priority Order）は動作しません。
- ・Data Rate Units preferenceをBytes per second に設定する場合、DIVx、Kinoma、Real、FlashそしてMPEG-4用の表示単位が変更されません。
- ・Outputウインドウ内のQuickTimeファイルサイズ表示はヒントデータを含みません。正確な出力サイズは若干大きくなります。
- ・1.4 Mbits/秒を越えるデータレートと640 x 480より大きなフレームサイズを持つWindows Mediaの出力はサポートされていません。
- ・サンプルレートが96 kHzもしくはそれ以上のオーディオソースはサポートしていません。
- ・MP3エンコーダはVariable Bitrateオプションを使用して、11.025のサンプルレートで8kb/秒のデータ転送速度をサポートしません。
- ・DIVxエンコーダは、1280を越える解像度をサポートしません。
- ・Windows Media用のEventStreamsはムービーの始めから7.1分までと制限されています。これはマッキントッシュ用のMicrosoft Windows Media SDKの制約です。
- ・Sorenson Video 3.3 Proは、QuickTime 7.x およびMac OS 10.4と完全互換をもちません。ウォーターマークを選ぶか、Sorenson pro encoder box内でマスクした場合、Cleanerはクラッシュします。この問題は、Sorenson Pro encoder boxに関わるすべてのQuickTime関連アプリケーションに影響します。
- ・Event Stream ウインドウに追加したEventは、Real Mediaエンコーディングには機能しません。Real Mediaによって標準サポートされるEvent はDisplay Text、Hot Spot、Key Frameそして Open URLです。
- ・Flip4Mac(旧名Popwire)とWMV-9出力コンポーネントのversion 1.1は、Cleaner 6.5.1と互換性をもちません。
- ・Meta dataは、実際のReal Media社の RealPlayer 10では適切に認識されません。

## ワークフロー・ティップス

- ・Cleanerに含まれる出荷提供されている設定の多くは、既定値で非インターレース設定させる様になっています。これにより、多くの共通のソース・フォーマットにより明瞭なエンコード画像を供給します。しかし、プログレッシブ フレーム フォーマット(映画、あるいはHDビデオのような)のソースマテリアルを用いて作業する場合、エンコードの前段階で非インターレース化を変更する必要があるかもしれません。このようなケースでは提供されたプリセットの一つを複製し、非インターレースコントロールを修正し、ユーザー自身の新しい設定を作成することが出来ます。

- ・正常に、Cleanerがマルチパスを使用してエンコードを行う場合、Outputウィンドウ中の上部にある進行インジケータは全体の進行を示します。その一方でウィンドウ下部にある進行インジケータは、現在のパスの進行を示しています。しかしH.264エンコードの場合はパスの回数が予見できません。よって上部の進行インジケータは計算にあとどのくらいかかるのかを示すものではなく、現在は正常に計算をしているということを伝えるだけになります。
- ・QuickTimeプレイヤーは4.2.2カラースペースを維持してMPEG-2クリップを再生できません。Cleanerはこのようなクリップを作成することが出来ますがQuickTimeにはMPEG2を再生する際に4:2:0の制限がつけられています。これらのクリップを見るためには標準とは異なるアプリケーションを使用しなければなりません。QuickTimeプレイヤーでMPEG 2クリップを再生させる為には、Apple社からMPEG 2再生コンポーネントを入手する必要があります。  
<http://www.apple.com/quicktime/mpeg2/>
- ・エンコーディング作業のためにより厳密な設定を行う場合、Settingリスト内の [Default]は選択しないで下さい。その代わりに、特定のコーデックをベースに編集する方法をとります。アウトポイント設定など行い、任意なクリップの一部を抽出します。それらに対し既定設定に対して何も編集することなくテストを実行し、かかった時間を保存します。適切にエンコードが実行されるのを確認し、好みの設定に調整するようにして下さい。
- ・Watchフォルダでの作業終了後は、設定したWatchフォルダ内にある「Completed Source files by…」内にあるソースメディアファイルを削除するようにして下さい。
- ・Watch Folder設定にクロップを伴う場合、数値入力が必要です。
- ・Watch Folderに対するFTPアドレスの送信先設定 (destination) は使用できません。
- ・QuickTimeムービー上でのMPEG-4 オーディオ (AAC)使用のためには、Audioタブ内のMPEG-4オーディオコーデックを選択し、Optionチェックボックスを有効にして下さい。
- ・あらゆるソースをWindows Mediaへ正しくエンコードするためには、オーディオトラック (audio track) が必要です。
- ・StreamPublisher機能では正確なURLを記述する必要があります。不確かなURLを使用した場合、エラーレポートなしで終了してしまう場合があります。
- ・基本的なMPEGソースからRealメディアへの作業では問題が発生する場合があります。Cleanerがオーディオとビデオが分割されている基本的なMPEGクリップをReal 10クリップに変換する場合に重複するファイル名が作成されます (例えば、Filename.aifとFilename.m2vは結果としてFilename.m2v + aif.rmとなります)。Realプレイヤーはファイル名内の+シンボルは理解しません。再生する場合はファイル名を変更する必要があります。

- DivXから変換されたコンテンツ内でAudioポップノイズが発生する場合があります。このようなケースがごくまれですが、もし発生した場合には以下の手順を踏んでください。 : QuickTimeプレイヤーを用いてオリジナルクリップを100%品質のアニメーション、Photo-Jpegなどの中間フォーマットで書き出します。そしてそれらをCleanerで処理します。
- Eventの開始時間がムービーの最後に設定されている場合にはOpen URL EventStreamが設定できません (EventStreamウィンドウ内で開始時間がアウトポイントに設定されていることによります)。回避するにはOpen URL eventを作業ムービーの最終フレームから1フレーム手前に設定します。

## サポート

サポート情報に関しては以下にアクセスしてください。

<http://www.autodesk.co.jp/me-support>